

「老」に込められた敬意 もしくは秋田の「おおらか」

秋田県立農業科学館なる立派な施設で、職員さんにツッコミを入れてきたことを報告したのは前々号だったかな。見過ごせなかったのは右の説明です。「老農」について、インターネットで調べた結果をいくつか転載します。

“「老農」というのは、「おじいさんの農家」という意味ではなくて、よく物事を知っていて熱心な農家の人という、尊敬の気持ちを込めた呼び方。”

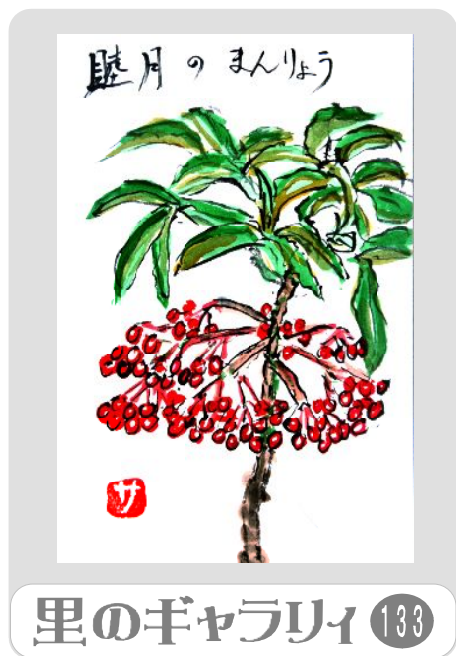
“老農に類する言葉に、篤農や精農、農聖、農哲などといった言葉がある。老農と言っても年老いた農民ではない。徳川時代の大老や老中が、必ずしも老人でなかったのと同じ”

さらに、こんな記述も見つかりました。

“老農とは、おもに明治時代、農書に基づいて在来農学を研究し、これに自らの体験を加えて高い農業技術を身につけた農業指導者。特に群馬県の船津伝次平、奈良県の中村直三、香川県の奈良専二の3人は明治の三老農と呼ばれ、彼らに次いで福岡県の林遠里、秋田県の石川理紀之助が知られ”

なんと、秋田県の石川理紀之助は、日本で5番目に名高い篤農だった！ そのお膝元で「老農（年とった農民）」なん

石川理紀之助は一八四五年(2年)秋田県小泉村(現秋田市)で生まれ、
「老農(年とった農民)といわれたい」



里のギャラリー 133

で説明が放置されてたんだねえ。たとえば校外学習などで入館したであろう秋田の子どもたちは、郷土の偉人を、ただの年寄りと教えられていたことになっちゃうぞ。

高い税金を注ぎ込んで作った施設だろうに、外注制作？した展示を点検もしなければ、疑問を抱く観覧者もいなかったのかなあ。いつの日か、はたして修正されるかどうか、再訪の楽しみができました。もし、ついででもあったら、どなたか立ち寄って確かめてみてください。

水戸駅で宣伝・・・若い人が次々署名

1月7日、茨城農民連の鍬入れ式(新年の顔合わせ)が開かれ、その後、水戸駅の南口と北口でTPP反対の宣伝行動と署名運動をおこないました。ぴしっとコートを着た紳士たちが素通りするかたわら、若い人たちが次々に署名を寄せてくれたのが印象的でした。

じつは個人的には、農業関係者がTPP反対の行動をすることには引っかけが弱いではありません。というのは、次のような誤解をいっそう広げてしま

うのではないかと心配です。

“TPPで農業は打撃を受けるけど日本の発展のためには参加すべき”なんて上っ面だけがマスコミを覆っています。一方的に大宣伝をされて、誰だってダメされちゃうかもしれません。ほかでもない北茨城の市長さんも同じような誤解をしているようだし。



水戸駅の南口で、北口で



ムシロ旗を立てて



野菜を配って